

◆T. 37、T. 38、コンテンツ転送の通信手順を用いたファクシミリの用語統一

第1版 2013.11.15

画像情報ファクシミリ委員会
技術小委員会/FAX 通信 WG

【目的】

T. 37・T. 38・コンテンツ転送の通信手順を用いたファクシミリが普及拡大しています。これらの通信手順を用いたファクシミリについて、各社内では様々な名称で呼ばれており、CIAJ各社委員間での認識違いや取り違いなどが発生するリスクが増大しており、これを防ぐことを目的としています。

【前提・策定方針】

- 1) CIAJ内での用語として、運用することを前提としています。
 - ・各社の使用用語まで統一する業界標準用語ではありません。
 - ・商標等の調査は、可能な限り行いましたが、調査の完全性を保証するものではありません。
- 2) CIAJ内関係各所の皆様に共通して使用しやすい用語とすることを考慮し、これまでにCIAJ関係各所内で使用してきた呼称を大きく変えずに踏襲することとしました。純粋に通信技術形態を明示するというよりも前記を配慮して策定しました。

【統一用語】

通信形態	用語提案	備考
T. 37	インターネットファクシミリ	
	インターネットFAX	英字は大文字に限定
	I-FAX	・最初の“I”含め大文字に限定 ・“-”は必須で省略不可
	※“W-NET FAX”は、HATSによる相互接続確認が完了しているインターネットファクシミリを限定して表現する場合に使用します。	
T. 38	IPファクシミリ	英字は大文字に限定
	IP-FAX	・最初の“IP”含め大文字に限定 ・“-”は必須で省略不可
コンテンツ転送	コンテンツ転送ファクシミリ	
	コンテンツ転送FAX	英字は大文字に限定

※ 英字は半角・全角も可です。但し、“-”含め半角全角の混在は不可です。

※ 技術小委員会内においては、通信技術形態を明確に示す名称としてITU-T/T勧告名称を含む T. 37インターネットファクシミリ/T. 37 I-FAX、T. 38インターネットファクシミリ/T. 38 I-FAXを使用する場合があります。

※ 議論の際に、“ファクシミリ”の部分を“ファクス”、“ファクス”、“ファックス”と言い替えることは排除しません。

【選定理由(参考情報)】

□T. 37 (W-NET FAX)

用語: インターネットファクシミリ・インターネットFAX・I-FAX

※ “W-NET FAX” は、HATSによる相互接続確認が完了しているインターネットファクシミリを限定して表現する場合に使用します。

選定理由:

・インターネットの言葉は広くT. 37に留まらないところがありますが、SWG 名称含め CIAJ 内での統一用語としてわかりやすい。

・W-NET FAX は、相互接続確認完了と国内限定との定義があり、CIAJ内の統一用語としては一貫性が取れなくなる可能性が有ることから上記用語のほうが適していると判断しました。

□T. 38

用語: IPファクシミリ・IP-FAX

選定理由:

・IP(Internet Protocol)はT. 38に留まらない名称ではありますが、“IP-FAX”の名称はT. 38 手順を使用したファクシミリとして HATS 等種々の資料中で使用されています。“リアルタイムインターネット FAX”も候補でしたが、T. 38を的確に表すものではなく優位性はない事と、現行で広く使われている上記用語のほうが適していると判断しました。

□コンテンツ転送

用語: コンテンツ転送ファクシミリ・コンテンツ転送FAX

選定理由:

・技術観点からもコンテンツ転送を使ったファクシミリであり適切と判断しました。

以上

